

カナダ・アルバータ大学における英語・文化研修セミナーへの参加

渡邊直人

装置開発グループ

1 はじめに

本セミナーは 30 年以上にわたり行われているカナダ・アルバータ大学との研究交流をきっかけに、1998 年度に大学院修士課程 1 年生を中心とした 10 名の学生を派遣した第 1 回からスタートし、2000 年に工学部間学術交流協定が大学間交流協定に昇格したことを機に全学へと募集対象を広げたものである。本セミナーは両大学間の交流拡大ならびに学生のグローバル化に役立つことを期待して、工学部および大学の後援のもと企画、実施されている。

セミナー参加者の派遣に際しては、例年工学部の教員及び職員が 1 名ずつ引率者として参加している。職員は工学部事務系職員の参加が慣例となっているが、今回は初めて技術職員が参加することとなった。



2 内容

2017 年度は 8 月 10 日から 9 月 7 日までの約 1 カ月で開催された。本セミナーは語学力向上だけでなく異文化交流の面も担っている。そのため、1 カ月の研修期間中はアルバータ大学における講義だけでなく、文化学習や学部の見学、ロッキー山脈のツアーを含めたアクティビティなどの様々なプログラムが用意されている。

2.1 授業

授業は平日の 8 時 30 分から 12 時 30 分まで 4 時間（途中 30 分の休憩を含む）実施された。クラスは 1 クラスあたり 10～15 人と少人数で構成される。アルバータ大学の生涯学習学部はカナダでも屈指の教育レベルを誇り、1 カ月と短い期間ながらも語学力を大幅に向上させる効率的、効果的な授業が行われた。最初は英語への抵抗感を無くすような授業がなされ、次第にプレゼンテーションやカナダの歴史など実践的な英会話へとステップアップしていく。日本の大学とは異なり、講義中も教員とのコミュニケーションが積極的に行われているのが特徴的であった。



2.2 文化学習

カナダは建国 150 周年を迎えたばかりで世界的には新しい国の 1 つである。しかしながら移民国家であり様々な文化が入り混じっているため、中身の濃い文化に触れることが出来た。セミナー中は、カナダの歴史を再現した歴史公園 Fort Edmonton Park や州会議事堂の見学を通して文化学習を行った。



2.3 学内見学

セミナーを実施しているアルバータ大学はカナダでも上位の大学であり、大規模な総合大学である。本セミナーは工学部の学生が主体となるため、工学部の研究紹介や工場の見学が行われた。また、文学部や教育学部など他学部の学生も参加しているため、芸術学部の見学が行われた。見学では大規模な研究施設や研究への取り組み、学生の研究姿勢に感心した。



2.4 その他

本セミナーは英語研修のみではなく文化研修も兼ねているため、プログラムには多数のアクティビティが組み込まれている。前述の学部ツアーや歴史公園の探索以外にも、国立ナノテクセンターの見学、カナディアンロッキーツアーなどが実施される。カナダならではの雄大な自然に触れるとともに観光地での英会話も行うこととなり、語学力向上に繋がった。また、学生たちは期間の後半、1~3名に分かれてホームステイをしており、日常生活で英語を使うこの期間での成長ははっきりと分かるものであった。



3 まとめ

本学では全学的にグローバル化に力を入れており、グローバル教育カレッジの設立やグローバルリーダーコースの創設など大学としてのグローバル化だけでなく、学生と接する機会のある職員にも語学力の向上などのグローバル化が求められている。本研修は職員の語学研修という側面もあり、技術職員として初めてこの研修に参加できたことは大きな財産となった。

学生がホームステイに行っている間、私は **B&B** を利用することでホストやほかの宿泊者と日常的に会話する機会を作った。中学から大学にかけて10年間英語学習をしているため、どうしても教科書通りの英語を話そうとしてしまいがちであるが、現地で会話する際には拙いながらも積極的に話す姿勢が必要であることをセミナーにおいて学んだ。もちろん語彙数が多いことに越したことはないが、自身の知っている単語を駆使して伝えたいことを話すことは日本においてはなかなかできることではなく、授業を含めた本セミナーは自身の語学力向上に十分な効果があったと言える。

また、引率の教員は最初の1週間で帰国したため、残りの3週間は1人で24名の学生を統率することとなった。通常であれば受け持つことのない人数の学生をまとめることは苦労も多かったが、学生との接し方や的確な指導方法を理解する上でいい機会になった。